

防火・防災クラブだより

横須賀市防火・防災クラブ運営協議会



シミュレーション訓練（自主防災指導員講習）



自然災害等研修（合同研修）



2024 年度全国防火標語

『守りたい 未来があるから 火の用心』



消火体験（市外研修）

会長あいさつ

横須賀市防火・防災クラブ運営協議会会長の鎌田 則子です。

まずは日々の活動にご尽力してくださるクラブ員の皆様への深い感謝の意を表します。

また、日頃より運営協議会、各防火・防災クラブの運営に対しまして、各地域の町内会・自治会の会長をはじめとする関係者の皆様のご支援、ご協力を賜り心から感謝申し上げます。

さて、昨年度、本クラブにつきましては、クラブ名称を「防火・防災クラブ」に変更し、新たなスタートを切ることとしました。また、名称のみならずクラブの構成員についても、各クラブの実情に応じて性別に捉われない組織へと変更し、さらに近年の自然災害による被害を考慮し防災についても積極的に取り組むこととしました。今年度はその第一弾として、自主防災指導員育成講習会を受講し、防災に係る知識及び技術の習得に努めました。

全国的には、昨年1月に発生した能登半島地震、9月には同地域で豪雨による大規模な災害が発生しております。私たちが住む三浦半島についても、能登半島と同様の地形をしており、また、活断層も複数あることから、ひとたび大規模な地震が発生した場合、同様の被害が発生することが推測されます。また、豪雨災害においても当市の地形は丘陵地が多いことから、土砂崩れなどの被害が予想されます。このような状況から、防火のみならず防災に係る取り組みについても推進する必要があると、本クラブについては、微力ながらも地域に根付いた地道な活動を行っていきたいと考えております。

最後に、クラブ員の皆様につきましては、今後も引き続き各種訓練や講話で得た防火・防災に関する知識を様々な機会を通じて積極的に地域に普及していただき、火災予防及び防災に係る思想を広めると同時に地域社会の活性化にも一役買っていただければと考えております。本協議会につきましても、各地域の防火・防災クラブ員とともに、火災予防の啓発、地域防災の向上などに努めて参りますので、引き続き皆様のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



運営協議会事務局より

日頃よりクラブ員の皆様につきましては、防火、防災に係る活動にご尽力いただきありがとうございます。

昨年度、クラブ名称を「防火・防災クラブ」に変更し、1年を通じて活動する初の年となりました。以前のクラブ名称「婦人防火クラブ」を略し、「婦防」と呼ばれていたのに対して、変更後は何と呼んだら良いのか戸惑うことも多々あったのではないのでしょうか？

本クラブの前身「婦人防火クラブ」は、昭和55年に5つの地域で設立され、その後、昭和58年には運営協議会を設立、現在、市内16クラブ、約400名のクラブ員により組織されております。また、令和7年度には、昭和55年から数えて45年となることから、その節目として記念誌の作成を予定しておりますので、ご期待ください。

令和6年度の活動を振り返りますと、新たに自主防災指導員育成講習会を受講していただき、防災に係る知識等の向上を図りましたが、来年度についても引き続き本講習会を受講していただき、1人でも多くのクラブ員に防災に係る知識等の習得に努めていただきたいと考えております。

令和7年度につきましても有意義な研修等を企画して参りたいと考えておりますので、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

○ 運営協議会総会の開催 令和6年6月10日（月）

市役所正庁にて、横須賀市防火・防災クラブ運営協議会総会を開催しました。

本総会では、令和5年度事業結果及び今年度の事業計画の説明を行い承認が得られました。また、今年度は、運営協議会役員の改選期であったことから、新たな役員を選出、承認され、新役員により本協議会の運営を行うこととなりました。

総会終了後には、消防局予防課の職員により、近年、住宅火災の出火原因として増加傾向にある電気に起因する住宅火災について講話があり聴講しました。



○ 自主防災訓練指導員育成講習会 令和6年9月11日（水）

三春町コミュニティーセンターにて、横須賀市危機管理課が主催する自主防災訓練指導員育成講習会を受講しました。

本講習会は、各地域で実施される自主防災訓練における指導員を育成することを目的とした講習ですが、防災の知識、技術の習得を目的に受講しました。

講習の午前中は、自主防災組織や横須賀市の防災対策などに係る座学を受講し、午後には、実技として防災資機材の取り扱い、避難所シミュレーション訓練などを実施しました。



○ 秋・春季火災予防運動中における防火広報の実施

令和6年11月9日～15日

令和7年3月1日～7日

秋季及び春季火災予防運動期間中に、各地域の一人暮らし高齢者宅や商業施設において防火広報を実施しました。

当該広報では、火災予防に係る広報、住宅用火災警報器の重要性、適正な維持管理などについて地域住民に周知を図り、住宅から発生する火災の予防に努めました。

また、長井クラブにおいては、地元幼稚園生とコラボして商業施設前にて防火広報を実施しました。



○ 合同研修の開催 令和6年12月6日（金）

中央消防署にて、16クラブ合同の研修会を開催しました。また、初参加として三浦市防火・防災クラブ員についても研修を受講しました。

本研修会は、近年、夏季の線状降水帯による被害が増加していることなどを踏まえ、横浜地方気象台地域防災係から講師を招き実施しました。

研修は、気象庁、横浜地方気象台の概要に始まり、気象状況を踏まえた様々な警報、注意報の利活用、これらの気象状況により発生する自然災害、その対策等について講話を聴講しました。



○ 市外研修の開催 令和7年2月5日（水）・6日（木）・7日（金）

運営協議会主催による市外研修を令和7年2月5日から7日までの3日間実施しました。

市外研修では、神奈川県総合防災センターにおいて地震体験、消火訓練、風水害体験プログラムを体験しました。また、昼食会では各クラブ及び他のクラブとの交流を図りました。



中央消防署管内防火・防災クラブ



北消防署管内防火・防災クラブ



南消防署管内防火・防災クラブ

○ 「全国女性防火クラブの集い」及び「第23 回応急手当普及啓発推進会議」（感想）

- ・開催日：令和6年11月7日（木）・8日（金）
- ・開催場所：日本消防会館（東京都港区虎ノ門2-9-16）
ホテルルポール麹町（東京都千代田区平河町2-4-3）
- ・出席者：三春防火・防災クラブ会長 鎌田 則子

表題に記してある「集い」及び会議に出席して来ました。

「集い」では、日本各地からの様々な活動報告があり興味深い勉強になる内容で、防火クラブとしての活動報告ではなかったのですが、地域の方々が防火防災をどのように考えているか理解できたように思います。

「推進会議」は、二地域での特色のある普通救命講習活動が報告されました。地域一丸となった活動をするということは容易ではなく、横のつながりが重要で、言葉では簡単ですが苦労されているだろうと感じました。

自分のために防火・防災クラブの活動をすることが、しいては地域のためになるのではないかと考えさせられた集いでした。

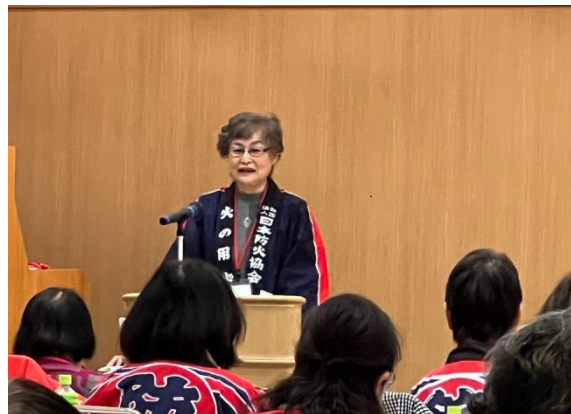


○ 令和6年度関東ブロック女性防火クラブ連絡協議会幹部地域研修会（感想）

- ・開催日：令和6年11月11日（月）・12日（火）
- ・開催場所：茨城県立国民宿舎 鵜の岬（茨城県日立市十王伊師640）
- ・出席者：浦郷町防火・防災クラブ 会長 石渡 清美 副会長 山田 身知子

関東ブロックで茨城での参加は2度目ですが、今回の日立市は、海の景色がとてもすばらしく感激しました。

研修内容は、住宅用火災警報器の交換「10年経ったらとりかえろ」の研修です。警報器は期限が切れると、日夜問わず、72時間以上ブザーが鳴ります。期限切れの合図です。10年過ぎたものについては、チェックをお願いします。との事です。そして後半は、薬師寺執事長、大谷徹英師の法話を聞くことができ、とても有意義な時を過ごしました。国民宿舎鵜の岬も海が目の前で感動でした。2日目の研修は御岩神社の散策、とても神秘的な神社でした。2日間の研修会とても有意義に過ごさせて頂きました。（石渡）



○ 令和6年度防火・防災クラブ市外研修（感想）

○ 本公郷防災クラブ 会長 内藤 位江 さん

消防局主催の防火・防災クラブ市外研修に本公郷クラブは7名で参加致しました。研修は窓の外にみごとな富士山を眺めながら、笑いを交えた絶妙なトークの消防職員による勉強会で始まりました。能登半島地震の支援に行かれた職員の話に聞き入り、地震火災対策として「感震ブレーカー」設置の必要性や通電火災を防ぐには避難の際はブレーカーを切ることを心掛け、周りのみんなにも伝えたいと改めて思いました。

「県総合防災センター」へは10年以上前に町内役員会で行ったのですが、研修内容がパワーアップしておりました。暴風の強さに息もできず、震度7の起震室には画像と揺れを見ているだけで恐怖でした。「まずは落ちついて画面のどこが危険か、治まったら、どこに逃げようかと揺れながらも考えてくださいね」との職員のアドバイスに「なるほど」となるべく冷静にと思い体験できました。美味しいお蕎麦会食とヤクルト化粧品工場見学でのしっとり体験に大満足の研修会でした。ありがとうございました。



○ 船越防火・防災クラブ 会長 伊藤 敦子 さん

今回の県総合防災センターの地震（震度7）、風水害（風速30メートル）等の体験学習は、私や参加したグループの方々にとって本当に有意義な研修だったと思います。震度7の地震は地の底からもの凄い力で突き上げ、そして立っていることなど全く不可能な揺れ、次々と倒れてくる棚や上からの落下物、その中で自分の身をどう守れるかと恐怖心でいっぱいになった！また、風水害体験、今回は風のみだったが、テレビのニュースで何度か見たトタンの屋根が飛んだり、古い大木が折れ倒れたりすることに納得がいった！今回の研修で“知る”と言うことの大切さを改め実感、是非、一人でも多くの方々に体験して頂きたいと思った。

※ 写真は、昨年度、勇退された早川前会長の退任式の写真を使用させていただきました。

○ 佐原防火・防災クラブ 会長 北村 喜美子 さん

今回の市外研修に佐原クラブは8名の参加となりました。神奈川県総合防災センターにて、地震、強風、煙体験、消火器訓練を受けました。地震体験では、震度7の揺れに今まで体験したことのない恐ろしい揺れ方がとても怖かったです。これが本当の地震の揺れなのか改めて痛感しました。強風体験では、風速30mの風、掴まって立っているのがやっとなりました。信じられないことがいつどこで起こるか分からない自然災害に、どう立ち向かえば良いのか常に考えていかなくてはと思うと難しいです。貴重な研修をありがとうございました。



○ クラブ紹介 桜が丘防火・防災クラブ 会長 石合 さとみ

桜が丘防火・防災クラブは、家庭からの火災を防止するために、火災予防の正しい知識を習得するとともに、火災の初期における消防技術を習熟し、かつ地域の隣保協力体制の強化ならびに連帯意識の高揚を図り、もって、明るい家庭と安全な町づくりに寄与することを目的に昭和 57 年に結成されました。

今年度は、14 人のメンバーで中央消防署で学んだ消火器取り扱い訓練や講習会で学んだ内容の周知のほか、「火の用心」の夜回りや自治会の納涼大会の応援などを行いました。

○ 令和 6 年消防関係表彰式 令和 7 年 3 月 15 日（土）

市役所正庁にて行われた令和 7 年消防関係表彰式では、5 名のクラブ員の皆さんが優良防火・防災クラブ員として、横須賀市消防局長表彰を受賞しました。

受賞、おめでとうございます。

- ・ 汐入防火・防災クラブ 小川 しおり さん
- ・ 坂本防火・防災クラブ 峯尾 真実 さん
- ・ 田浦四・五丁目
防火・防災クラブ 木川 紀子 さん
- ・ 内川防火・防災クラブ 原口 明美 さん
- ・ 新岩戸防火・防災クラブ 長澤 とみ子 さん



○ 令和 6 年度 優良婦人消防隊員功績章授与式 令和 7 年 3 月 21 日（金）

これまでの功績に対して、公益財団法人日本消防協会から本公郷防火・防災クラブ 内藤 位江会長に対し、優良婦人消防隊員功績章が授与されました。

令和 7 年 3 月 21 日に南消防署において、賞状の授与を行いました。

受賞、おめでとうございます。

- ・ 優良婦人消防隊員
本公郷防火・防災クラブ 内藤 位江 会長



参考：優良婦人消防隊員功績章は、三浦市防火・防災クラブが初の受章となりました。

火災の現状について

令和6年中、横須賀市内で発生した火災は70件で、前年と比べると火災は20件減少しましたが、約5.2日に1件、市内のどこかで火災が発生したことになります。

また、総出火件数のうち、32件（45.7%）は住宅（専用住宅、共同住宅、併用住宅）から発生した火災で、火災の約2.2件に1件は『住宅火災』でした。

火災による死者は8人で、火災件数は減少したものの、死者数は4人増加しました。また、これらの死者全てが住宅火災により発生し、このうち7人については65歳以上の高齢者でした。



住宅火災における出火原因をみると、「電気関係」によるものが最も多く、続いて「たばこ」、「放火（疑いを含む）」によるものとなっており、近年、電気に起因する火災が増加傾向にあります。

【 火災件数及び火災種別 】

（件）

年	総出火件数	火 災 種 別					
		建物	林野	車両	船舶	航空機	その他
令和6年	70	46	0	9	0	0	15
令和5年	90	54	0	9	1	0	26

【 住宅火災の発生状況 】

（件）

年	総出火件数	住宅火災	割合（%）
令和6年	70	32	45.7
令和5年	90	34	37.7

【 火災による死者数及び負傷者数 】

（人）

	死者数	負傷者数
令和6年	8	21
令和5年	4	30

【 住宅火災における出火原因 】

（件）

	第1位	第2位	第3位
出火原因	電気関係（7）	たばこ（5）	放火（疑い含む）（4）

※ カッコは件数

住宅火災を未然に防ぎ、また、もしも火災が発生した時に備え、次の「4つの習慣」、「6つの対策」に努めてください。

住宅 防火

いのちを守る10のポイント

4つの習慣



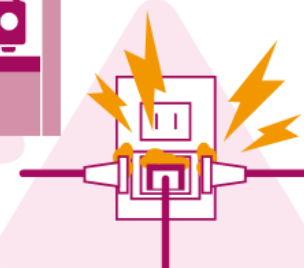
1 寝たばこは絶対にしない、させない



2 ストープの周りに燃えやすいものを置かない

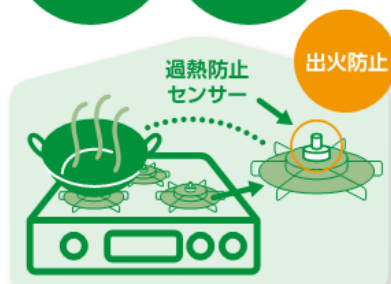


3 こんろを使うときは火のそばを離れない

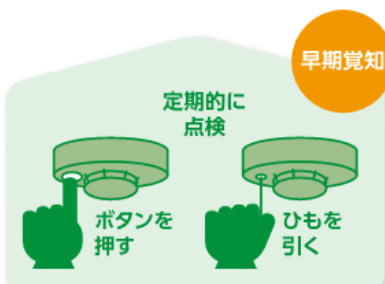


4 コンセントはほこりを清掃し、 unnecessary プラグは抜く

6つの対策



1 火災の発生を防ぐために、ストーブやこんろ等は安全装置の付いた機器を使用する



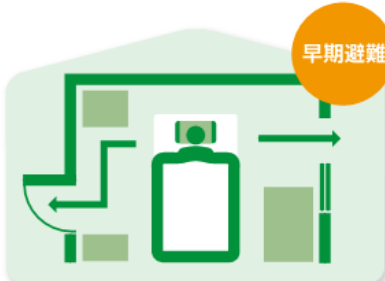
2 火災の早期発見のために、住宅用火災警報器を定期的に点検し、10年を目安に交換する



3 火災の拡大を防ぐために、部屋を整理整頓し、寝具、衣類及びカーテンは、防災品を使用する



4 火災を小さいうちに消すために、消火器等を設置し、使い方を確認しておく



5 お年寄りや身体の不自由な人は、避難経路と避難方法を常に確保し、備えておく



6 防火防災訓練への参加、戸別訪問などにより、地域ぐるみの防火対策を行う

住宅用火災警報器の設置、維持管理等について

全ての住宅に住宅用火災警報器（以下「住警器」という。）の設置が義務化されてから 10 年以上が経過しました。住警器については、電子機器であることから電子部品の耐用年数があり、メーカーが推奨する年数は 10 年となっています。このことから、設置が義務化された時期に住警器を設置したご家庭については機器の交換時期を迎えております。有事の際、住警器が作動しないことを防止するため、設置から 10 年を経過したものについては早急に機器本体の交換をお願いします。

また、住警器にほこりなどが溜まることにより、正常に作動しないおそれがありますので、定期的な清掃、点検を行うようお願いいたします。



10 年たったら、
とりカエル！！

感震ブレーカーの設置について

これまで横須賀市では、感震ブレーカーの設置については深夜の時間帯に地震が発生した場合、建物内の通電が遮断され避難の障害となることから設置を推進しておりませんでした。地震発生後の被害等を考慮し当該機器の推進を図ることとしました。東日本大震災における本震による全火災 111 件のうち、原因が特定されたもの 108 件の過半数が電気関係により出火しました。感震ブレーカーを設置することで大規模な地震が発生した際の電気に起因する火災のリスクを低減することができますので、当該機器を設置し大規模地震に備えましょう！

【感震ブレーカーの種類】

分電盤タイプ（内蔵型）	分電盤タイプ（後付型）	コンセントタイプ	簡易タイプ
分電盤に内蔵されたセンサーが揺れを感知し、ブレーカーを落として電気を遮断。	分電盤に感震機能を外付けするタイプで、漏電ブレーカーが設置されている場合に設置可能。	コンセントに内蔵されたセンサーが揺れを感知し、コンセントから電気を遮断。	ばねの作動や重りの落下によりブレーカーを落として、電気を遮断。
約5～8万円（標準的なもの）	約2万円	約5,000円～2万円	3,000円～4,000円程度
電気工事が必要	電気工事が必要	電気工事が必要なタイプと、コンセントに差し込むだけのタイプがある	電気工事が不要

（注）住宅分電盤の種類に適した製品をお選びください。



**感震ブレーカーを設置して
電気火災から「家」・「地域」を守ろう。**

防災情報メールサービス

横須賀市では、大雨洪水警報などの防災気象情報等を市内約 400 カ所のスピーカーで市内の皆さんにお知らせしています。この情報を防災情報メールサービスに登録することにより、ご自身のスマートフォンやパソコンなどにメールにてお届けします。ぜひ、ご登録ください。

なお、防災情報テレホンガイド（046-822-3900）でも確認ができます。

○ 登録方法

- ① 下記の登録用アドレス又は QR コードで読み取った登録用アドレスに空メールを送信してください。
- ② まもなく登録手続きの案内メールが配信されます。案内に従って手続きしてください。

【登録用アドレス】

bousai-yokosuka@raiden.ktaiwork.jp



※ 携帯電話で登録される方で、迷惑メールの設定（ドメイン指定受信など）を行っている場合は、空メール送信前に次のメールが受信できるように設定してください。

ktaiwork.jp（@はつけないでください）

消防局からのお知らせ

本市の地形は丘陵地が多く、土砂災害発生リスクが高いことから、消防局では、大規模な土砂災害等に対応するため、令和5年に土砂災害機動部隊（局 LTF）を編成しました。

また、令和6年11月には、横須賀市消防団に同災害に対応するための部隊、消防団土砂災害機動部隊（消防団 LTF）を発足し、令和7年4月から運用を開始します。

局 LTF と消防団 LTF 2 隊により、土砂災害等への早期対応を図ります。



火災を未然に防ぐために、また、『いざ』という時のために

防火・防災の知識、技術を習得しませんか！



防火・防災クラブでは、家庭防火に役立つ研修や視察、初期消火に必要な消火訓練などを実施し、まずは各家庭から火を出さないことを目的に活動しています。また、大規模地震などに備えるため防災に係る取り組みも実施しています。これらの活動以外にも、救命講習を受講するなど、日常生活に役立つ研修も実施しています。

随時、防火・防災クラブへの入会を募集していますので、ご興味のある方は下記の問い合わせ先までご連絡ください！！

お問い合わせ先

- | | | | |
|----------|------------------|---------|------------------|
| ○ 消防局予防課 | TEL 046-821-6466 | ○ 中央消防署 | TEL 046-820-0121 |
| ○ 北消防署 | TEL 046-861-3972 | ○ 南消防署 | TEL 046-833-1276 |

【防火・防災クラブ設立状況】（全16クラブ）

◎ 中央消防署管内（6クラブ）

- | | | |
|---------------|--------------|--------------|
| ○ 汐入防火・防災クラブ | ○ 金谷防火・防災クラブ | ○ 坂本防火・防災クラブ |
| ○ 桜が丘防火・防災クラブ | ○ 三春防火・防災クラブ | ○ 池上防火・防災クラブ |

◎ 北消防署管内（4クラブ）

- | | |
|---------------|-------------------|
| ○ 吉倉防火・防災クラブ | ○ 田浦4・5丁目防火・防災クラブ |
| ○ 浦郷町防火・防災クラブ | ○ 船越町防火・防災クラブ |

◎ 南消防署管内（6クラブ）

- | | |
|---------------|---------------|
| ○ 内川防火・防災クラブ | ○ 本公郷防火・防災クラブ |
| ○ 新岩戸防火・防災クラブ | ○ 長井防火・防災クラブ |
| ○ 大矢部防火・防災クラブ | ○ 佐原防火・防災クラブ |



横須賀市防火・防災クラブに関するお問い合わせ先

横須賀市防火・防災クラブ運営協議会事務局

〒 238-8550 横須賀市小川町 11 番地 横須賀市消防局5階予防課内

TEL 046-821-6466